十二月三日　豊栄市に高等学校をもう一校新設してほしいと県知事と教育長に陳情。人口七万六千人の新発田市に県立四校と私立一校がある。豊栄市の半分もない水原町と安田町にも各一校がある。現在四万二千人でなお急増する豊栄市に一校しかないのは不合理であり、通学の不便は大きい。県教育長には早くからうったえていたし、今回は知事も理解してくれた。しかし、一校新設には二十億円近くを要し、用地は市で準備しなければならない。県も市も財政多端の折、その実現は容易でない。さらに強力な運動の推進が必要だ。

十二月六日、七日　日本都市センターで開かれた都市企画会議の講賀会で勉強する。テーマは「政府の地方政策」で講師は各省の大臣官房参事官または企画室長。三全総は人間の定住構想であり、大平総理は田園都市構想を唱えた。コミュニティ活動の必要は数年前から言われている。長州神奈川県知事が言った「地方の時代」は流行語になった。各講師の講義も、地方重視の政策に一致していることがよくわかる。私の責任は、政府の諸政策を最大限にとり入れていいまち作りに努めること、そのために全市民のご理解とご協力をいただくこと。帰ったらその方針で早速新年度の予算編成にとりかかろう。

十二月八日　豊栄の画家三人の遺作展が開かれた。佐藤与資太市議を会長とする若葉会の皆さんが特に努力してくれた。小黒酒造所蔵の屏風の大作などはじめて見た人も多かろう。明年開館する博物館には、郷土出身の画家、及び豊栄市を描いた市外の画家の絵を各一点は集めたい。

十二月十日　明年は町村合併から二十五年、市制施行から十年になる。十一月一日の新町建設二十五周年、市制十周年記念式を挙行することを中心に、各種記念行事を行いたい。このために、助役を委員長とする各機関の事務局長、市役所の関係課長による企画委員会を設けた。明年一月には各機関、団体代表者による審議を経て計画を決定したい。既に原稿募集している市民の戦争体験記録もその事業の一つとなる。全市民が過去をふり返り、思いを新たにしていいまち作りに力強く前進する節目にしたい。事業や行事は多くなり、多くの市民の分担によるご協力をお願いしたい。

十二月十一日　今年刊行された市民の著書でここに書き残したものに、今春黒崎中学校長を最後に退職された、須戸の本間直蔵先生の「回想録志原」がある。市民ではないが最近いただいたものに、元葛塚警察署長小柴郁三さんの「漢詩訳百人一首」がある。百人一首を漢詩にしたもので、文学的にも価値高いものであろう。近く刊行予定には「白鳥のいる風景、その文化史と生態」がある。著者は日本白鳥会理事務局長本田清君で、NHKブックスの中の一冊となる。本田君は日本有数のアマカメラマンで、私が会長をしている県公民館連合会の事務局長でもある。日本有数の白鳥研究家で、福島潟のことは私たちよりはるかに詳しい。この本には福島潟の白鳥のことも紹介されている。発行されたら市販されるので一読をおすすめする。

一九七〇年代は間もなく終わる。市民の皆さん、いい年をお迎えください。

市長の日誌　石井利一

やあ！　おげんきですか
ゲートボールに汗を流す
本間トシエさん（笠柳）

ゲートボールとは、どういうことをするのですか

「昔、あちらの国で、皇室の人らしい偉い人がしたスポーツらてんねっかね。今老人の間で、人気があるゴルフみたいな競技を言うんども……」

始めた動機など

「若いころは、しゅうとがきびしく、とにかく働くことだけでした。大病をしたことなどもあって、家から外へ出ることなど、めったになかったんです。しかし、つれ合いがなくなってからの苦労も、次第に薄れ、家庭的にも恵まれてからは、外出するようになってしもてね。今日は月岡、今日はゲートボールと、若手の理解があってねえ。ゲートボールは、血圧が高いがんでその健康法だと思って、やり始めたんですがね」

ゲートボールを楽しむ、本間トシエさん（62歳）

楽しいですか

「はあい。おもっしゃわねゲート（関門）を通過させたり、目標棒に当てたりするとそのボールを持って、飛び上がったりしますわね。木崎地区は、ゲートボールが盛んで、一式を買いました」

民謡が得意だそうですが

「だれが、そんげこと言うたね。それは好きらろも、上手なんかじゃねえわあ。昔は、田の草取りなんかで、よく音う（唄う）たし、習ったもんだろも、今は忘れっぽくなったねし。この前、部落の女衆十六人が集まって、民謡を習う会をつくったんです。自分も入れてもろたろも、なかなかうまくいきませんね」

本間さんのことを家族の人はどのように

「ハイカラバアチャンまではいかなくても、行動派だと思っているんじゃねえろっか先月の末、車に乗って、家族で蒲谷まで行ってきたんですが、いい日だったのか、あっちこっちで、ゲートボール大会をやっているんです。みんなで〝バアチャン、車から降りてやっけ〟なんて冷かすんですよ。ゲートボールをやる日だと〝バアチャン、はよ行って一番になってござせ〟といってくれますがね」

ゲートボールは、西欧から入ってきた木槌でボールを打つスポーツで、高齢者、婦人層に適しており、最近、市の老人クラブで流行しています。

やる人が二百人もいるんです。一チーム五人で組むんですが、我が笠柳チームが優勝したんですね。この前部落で道具

出土品は語る　(20)

鳥屋遺跡

昭和二十九年鳥屋地区の区画整理に土器や貝殻が沢山でたと聞き自治会長の石田喜一郎さんを訪問したのが十二月五日でした。石田さんが十五、六の時から自分の苗代田や梨畑からひろわれた石鏃や石斧、耕地整理にでた大洞式土器をみた時、こんな低いところから縄文土器がでたのに驚きました。石田さんは土器のでるところは表土の青色粘土の下約二十cmの黒土層がありその下が砂で、その黒土層に土器がある。その土地は良水がでる。土器の無いところは粘土の下に黒土層がなく草の根の固まったプタクスのどぶ田だというのです。研究の資料にしなさいと遺物をそっくりいただきました。同十九日石田さんと中野茂弥さんの田の土を掘りあげて農道をつくった時出土したほぼ完形の土器四ケと石斧、土器片多数を村人からいただいてきました。翌三十年四月十七日平木田の遠駄天山の七重の塔の竣功式の時国学院大学の小出義治先生に鳥屋土器をみていただきました。八月二十五日小出先生を鳥屋遺跡へ案内し、石田さんから発掘援助の内諾を得ました。昭和三十一年八月十八日磯崎正彦先生がおいでになり、四日間鳥屋土器を調査され翌年三月石器時代四号に鳥屋の晩期縄文についてと発表されました。

第一回発掘

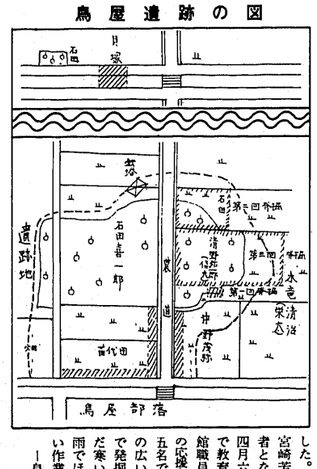
小出先生と寺村光晴先生が北方文化博物館の援助により、清野弥一郎さんの梨畑の空地と木滝清治さんの田の一部を昭和三十二年八月二十六日から二十九日まで法成寺に宿泊し発掘されました。翌年鳥屋遺跡発掘調査報告が北方文化博物館から発行され一躍晩期縄文遺跡として重視されました。

第二回発掘

石田さんが畑を田にすることになりましたので豊栄市教育委員会で発掘する許可を得ました。教育委員会の宮崎芳春さんが担当者となり五十三年の四月六日から八日まで教育委員会、公民館職員と県から二人の応援を得、傭か十四、五名で約三百平方mの広い土地を三日間で発掘しました。まだ寒い北風と毎日の雨でほんとうにつらい作業だったのです。

―畠山　佑二記―

鳥屋遺跡の図



はし
(9)　代五郎橋

東工業港に近い、木崎地区の浦ノ入地内に金清水川が流れています。そこに架かっている橋が〝代五郎橋〟です。

橋に近い小林良作さん（七二歳）と丸山英一さん（七二歳）に語っていただきました。

「金清水川は、浦ノ入の山興野というところから、新発田川合流地点の居山まで流れている川です。

山興野地内に金清水という池がありまして、そこから流れたもんで、その名が付いたと聞きますね。金清水の名のとおり、金の清水のように、すき通ったきれいな水でした」

（小林さん）

「本当にきれいな水だったねえ。飲み水にもしました。しじみ貝がいっぱい取れてね代五郎橋の代五郎とは、橋のある居山に、村山金蔵どんという家があります。その金蔵どんの先代が代五郎という人だったんですね。そのころ名字なんかなく、名前だけを呼んでいたと聞きます」（丸山さん）

「代五郎とは、偉大な人だ」

（小林さん）

「子供のころ、泳ぎの下手の人は、金清水川で、上手になってくると、新発田川の合流地点で泳ぐんです。ぽっこれ橋から飛びこんだり、近くにある地蔵様の頭を投げたりおもっしゃかったねえ。代五郎橋は、新発田や新潟、それに水原へ行くに、大事な橋なんです。昔、馬車がひっくり返って、川がふさがったなんて時もありました。この川は、すぐ水害の出る川ですが、今でも、農業用水として欠かせないんです」（丸山さん）

▲写真は現在の代五郎橋。

たったんでしょうね。我々の小さい時から、だいぐるまえ（代五郎前）の橋と呼んでいましたからねえ。いつごろの人だったんでしょうか。今の橋は、三代目で昭和三十六年に架けられた永久橋です。前の橋より、ちょっと動いていますがね。川幅も、昔とくらべたら半分ぐらいになっています。こやし（肥料）あげの船や、わら灰船（別名あく船）それに梨を積む長船（別名小屋船）などがのぼってきた時期があったんですよ。代五郎前に川戸がありまして、そこで荷上げが行われました。こやし船とは、人ぶんを・売・買・する船で、ふくさとかげん六茶屋などという業者がいました。

わら灰船とは、わらの灰を積んだ船で、人ぶんと混ぜ、肥料にするんです。長船は、梨の産地のもんだから新潟から夫婦で業者がくるんです。小屋がかかっていて、寝起きが出来るんですよ。梨運び船です」（小林さん）

「子供のころ、泳ぎの下手の人は、金清水川で、上手になってくると、新発田川の合流地点で泳ぐんです。ぽっこれ橋から飛びこんだり、近くにある地蔵様の頭を投げたりおもっしゃかったねえ。代五郎橋は、新発田や新潟、それに水原へ行くに、大事な橋なんです。昔、馬車がひっくり返って、川がふさがったなんて時もありました。この川は、すぐ水害の出る川ですが、今でも、農業用水として欠かせないんです」（丸山さん）